

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	NPO法人ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地1		
自己評価作成日	令和7年11月1日	評価結果市町村受理日	令和8年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400523-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400523-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和7年11月15日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平日は、併設のデイサービスと合同で過ごし、デイサービスのご利用者様との交流を行うことで、外部の人となじみの関係が構築されています。また、ご利用者様は食事を楽しみにしている方が多く、中々外食レクは叶いませんが、月に1度の昼食レクでは、利用者様から食べたいものを伺い、お好み焼きや冷やし中華等、利用者様と一緒に調理して召し上がって頂いています。おやつレクも季節に合わせて、スウィートポテトや鬼まんじゅう等、大変喜んで頂いています。

今年新しく入居された方はご近所で、2F居室の窓から自宅が見え、「家があるけど、ここにいればお世話して下さる方がいるので安心。1人は寂しいけど皆さんがいるので楽しい」と仰っています。近所にお寺が多く、散歩コースになっており、近所の友人が面会に来て下さることも多くなりました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、人と人との触れ合う「ぬくもり」を大切にしながら、尊厳を守り、その人らしく生き生きと暮らせるよう、利用者の気持ちを受け止め、寄り添いながら支援している。併設する通所介護事業所(デイサービス)との交流もあり、何気ない日常の中の良い刺激となっている。

管理者は職員と定期的な面談を行い、不安にも寄り添いつつ、人材育成に取り組んでいる。職員の意見や提案に真摯に向き合い、それらを支援に反映させている。職員間の関係も良好で、自分の意見や気持ちを安心して伝えられる、風通しの良い職場環境である。

施設長をはじめ、職員として経験豊かな看護師が数名在籍している。そのため、経験の浅い介護職員であっても、安心して看取りケアが行えるサポート体制が構築されている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”人と人との触れ合い【ぬくもり】を大切に” ”利用者の尊厳を守り、その人らしく生き生き暮らすことを支援する”を理念として、日々精進しています。理念は、玄関に掲示しており、意識づけしています。	理念を玄関やタイムカード前に掲示し、ミーティングや研修の際に繰り返し確認することにより、浸透を図っている。理念に基づく実践により、家族から感謝の言葉を多く得ており、ホームが年1回実施している満足度アンケートにおける評価は高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、町内会の参加、祭りの協力、ごみの収集場所を提供したりしています。今年、施設建物の前の方が入居され、昔から知っている施設に入居した安心感と、近所の友人の面会が増えました。	町内会への参加やごみ収集場所を提供したりと、日常的に地域との協力関係ができています。竹鼻まつりでは山車がホーム前の道を練り歩き、多くの観衆でにぎわうため、一般客にトイレを貸すなどの協力も行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催しており、6か月に1回はデイサービスとの合同会議を行っています。毎回、事前にアンケートでご意見を伺っており、参加できないご家族様の声を反映するようにしています。	2ヶ月ごとに、運営推進会議を対面にて開催している。会議には市内の調剤薬局も参加し、ホームの現状報告や意見交換を行っている。毎回家族に事前アンケートを実施しており、参加できない家族から寄せられた意見等も会議で共有している。	ホームの目標達成計画の進捗状況を報告し、家族や地域関係者から意見や助言を得ながら、ホームのサービス向上につなげていくことを期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方とは、日頃から連携をとっており、介護保険の改正などの情報確認など相談もできる関係が構築できています。	数名の生活保護受給者の受入れがあり、必要時には担当者との課題共有や意見交換を行っている。市役所とは、日常的に運営上の相談をする機会を持ち、担当者との顔の見える関係を構築している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化検討委員会設置、3か月に1回会議で検討しています。現在該当者はいませんが、安全のために行うことが、知らずに拘束ということがないように、毎年定期的に研修を行っています。今年は管理者が外部の研修を受講し、伝達講習しました。	併設のデイサービスと合同で、身体拘束をしないケアの研修を行っている。常勤、非常勤、派遣社員等の区別なく全ての職員が共通認識の下、身体拘束をしないケアについて正しく理解できるよう、毎年基本的な事柄から繰り返し伝えている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止推進委員会を設置、年2回会議を開催しています。不適切なケアも含め、マニュアルを作成、研修を行っています。虐待であるという行動がある際は、個別に指導を行っています。今年5月に研修を行いました。	年2回、虐待防止検討委員会を開催している他、虐待防止と人権擁護に関する研修を毎年行っている。虐待に至る前の段階からの意識付けにも取り組んでおり、必要時にはOJTとして個別に指導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、研修を実施しています。今のところ必要性のある入居者様はおりません。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族様と面談し、契約内容を説明しています。 必ず、質問がないか確認し、わからないことがあれば連絡頂くよう説明し、ご理解頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に来られないご家族様には、毎回運営推進会議の時にアンケートでお声を聞くようにしています。 また、面会や電話等でも困っていることはないか？意見を伺う機会を大切にしています。	家族には、毎月のホームだよりとともに、利用者ごとの日々の様子やADLの状況を送り、利用者の状態の情報共有を図っている。来訪時や電話連絡時の他、年1回満足度アンケートにて家族等の意見を聞く機会を設け、サービス向上につなげている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームの定例会議・全体会議・リーダー会議を開催し、現状の把握や職員からの意見を聞き、意見交換ができるようにしています。また参加できない職員もいる為、意見箱の設置、レポートの提出等で意見を出しやすい環境を整えています。	朝礼や毎月のミーティング、日々の「申し送りノート」の活用により、職員の意見を聞く機会がある。併設のデイサービスとの合同ミーティングでは、グループワーク形式で意見交換を行う等、意見を出しやすい雰囲気づくりに工夫がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員は、それぞれ希望や背景、立場が違うので、強い発言力に押されて我慢しないように、適宜個別の面談を行っています。 今年は、日本語が話せる外国の人に働いて貰っていますが、記録が難しいので、iPadの活用や、丁寧な指導・ノートの活用など工夫しています。	職員の家庭の事情等に、できる限り配慮したシフト調整を行っている。常日頃より、職員個々の特性や得手不得手をお互いに理解し合い、助け合える職場の風土づくりを意識している。職員関係は良好であり、風通しの良い職場となっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、処遇改善研修を実施しており、なるべく現場の状況に応じたテーマを採用しています。 資格取得の為に支援も実施していますが、法人外の研修に参加したい職員が少なく、リーダークラスのスキルアップが課題となっています。	職員教育は、管理者や先輩職員によるOJTを中心に行っている。外部研修には、業務として参加できるよう、シフト調整や研修費用の負担等の支援体制を設けている。未経験から10年以上勤務し、介護福祉士資格を取得した職員も在籍している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修は施設内だけでなく、県や協会等地域の研修に参加するよう促しています。 今後は管理者やリーダークラスを育成し、地域の勉強会に積極的に参加、施設のレベル向上へと繋げて行けるようにしたいと思いをしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築けるように努め、談話をしながら、日常の家事(洗濯たみ・食器拭き)を寄り添いながら支援しています。 また、利用者に合わせて寄り添えるよう心がけています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りのことを叶えたいという気持ちで対応していますが、一人ひとりに向き合うことが難しいです。外食はまだ出来ませんが、毎月希望に沿ったランチを一緒に作ったり、誕生会等で楽しんで頂いています。	日常的に利用者に丁寧に関わることで、思いや意向の把握に努めている。利用者が本音を伝えられるよう、利用者と職員が1対1で居室等で傾聴することもある。得られた情報はミーティング等で共有し、改善に向けた取組みを行っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会議で、入居者様の状態の変化や問題となることを話し合い、全職員が共通認識としてサービス計画に反映するようにしています。また、家族の希望にも添えるよう、適宜連絡をとり支援しています。	毎月のミーティング等で、利用者個々の支援内容について話し合い、適宜見直しを行っている。利用者の変化については、都度、介護支援専門員と情報共有し、介護計画に反映させている。家族の意向は、面会や電話連絡時に確認している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadで毎日の個別記録を入力し、申し送りと業務日誌を活用して、全職員が情報の共有をしていますが、職員の力量により、記録や申し送りに課題が生じています。	利用者の日々の様子やケアの実践・結果等については、「申し送りノート」や「業務日誌」、介護ソフトを活用した「介護記録」にて情報共有している。今後は、効果的な記録の活用方法や、記録内容の質の向上に向けた取組みも検討している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が不安に陥り、声が聴きたいと言うときは、電話で話をさせていただいたり、病院受診時には、家族と食事を一緒に摂って頂いたりして、ご家族の希望にも沿うようにしています。	利用者や家族の要望には、可能な限り実現できるよう努めている。専門科への通院は原則家族対応としているが、法人として福祉有償移送事業も運営しているため、利用者・家族の要望に応じて、通院の送迎を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も地域の竹鼻まつりで、練り歩く山車を目の前で見学することができました。また、近所にある竹鼻別院の藤まつり、本覚寺のぼたん祭と季節に応じてお散歩しています。11月はぬくもりで育てた鉢も出品予定の美濃菊展も楽しみにしています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療があり、常に主治医との連携が取れています。また診療以外でも必要時、連絡を取って、適切な医療が受けられています。また、歯科など他科受診時は、ご家族が移送サービスを利用して受診しています。	希望者は月2回、24時間365日の対応が可能なホーム協力医の訪問診療を受けることができる。協力医とは、異常時にはすぐに相談できる関係が構築されており、早期に適切な医療が受けられる体制ができている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が大変協力的で、必要時には入院も円滑に行っています。看護師により、地域の羽島市民病院との連絡も密にとれる体制です。今年はお一人の入院がありました。ご家族様の希望もあって早期に退院が出来ました。	入院時、病院へは書面による情報提供を行っている。入院中は入院先への病状確認、退院カンファレンスへの参加により、早期退院に向けて協働を図っている。病院が主催する研修会に参加する等、日頃から顔の見える関係づくりに努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の意向を確認しており、ご家族様の希望があれば、ぬくもりで看取りを行います。食事が減少し、寿命が近いか？という方には、家族に意向を再確認し、希望に沿った対応を行っています。	入居時に、本人や家族に重度化や終末期の意向確認を行っている。実際の看取り期にも、意向の再確認を行っている。職員として、常勤・非常勤合わせて複数名の看護師が在籍しており、適切な看取りケアができる体制がとられている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、異常時や急変時には、看護師による的確な指示ができるように定期的に研修を行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを策定しており、地震・水害・感染対策マニュアルがあります。2か月に1回程度、夜間想定火災避難訓練を実施しており、消防署の指導による消防・避難訓練は10月に実施しました。	昼間想定訓練はデイサービスと合同で行い、互いに協力して避難ができるよう訓練している。2ヶ月に1回は夜間想定避難訓練を実施し、消防署と連携しながら、初期消火訓練や避難誘導方法の確認を行っている。	運営推進会議で、災害時における地域との協力体制について検討する機会を設けられたい。具体的な協力内容の確認や事業継続計画(BCP)の実効性向上に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れることなく接しています。 マナー研修も行っており、利用者様の気持ちを尊重した上でその時々に応じた対応ができるよう、心がけています。	接遇やマナー研修を行い、職員への意識浸透を図っている。日々のケアにおいては、人生の先輩として、日常的に敬意をもって関わり、敬語での声かけに努めている。排泄に関しては、過剰な見守りではなく、傍らから見守るよう心がけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のレクや、誕生会等で、行きたい所や、食べたいもの等を聞いて、リクエストにお答えするようにしています。 人前で話せない方には、ご家族様に好きなものを伺ったり、日常生活の支援の中で好みの物を聞いて叶えるようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはありますが、状況・状態を把握し、どうしたら喜んで頂けるか・安心して頂けるかを考えて支援を行っています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、昼食レクとおやつレクを実施しており、利用者からのリクエストに答えています。 季節のフルーツや野菜など、ご家族様からの差し入れも多く、大切に使用させて頂いております。 また、プランターでナスやオクラ等を育てており、味噌汁の具にしています。	朝昼晩のおかずは完全調理食を提供し、ご飯と味噌汁はホームで作っている。味噌汁の具となる野菜は、利用者とともに収穫している。月1回の昼食レクや月数回のおやつレクでは、利用者のリクエストに応え、季節感のあるメニューを提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録し健康管理に努めています。また、体重の増減にも気を配っており、糖尿病の方には、ご飯の量を計って出している時もありました。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の歯磨きを実施。口腔内の状況に合わせて、歯ブラシ・口腔スポンジ・口内洗浄液を個別で、変化に応じて対応しています。 今後は専門職による評価ができればと考えています。	起床時や毎食後に口腔ケアを行い、就寝前は義歯を洗浄剤に浸して消毒する等、口腔内の清潔保持に努めている。異常を発見した場合には、適宜歯科受診につなげ、良好な口腔状態の維持を支援している。今後は、訪問歯科診療も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、排泄の間隔などを見て、個別での声掛けや排泄介助を行っています。全介助の方でも、トイレに座れる方はトイレにお連れして介助しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安心・安全を第一に考えて介助しています。一般入浴に無理のないように2人介助も行っています。季節によっては入浴剤やアロマ、ゆず、ひのきなどを使い、楽しみにして頂いています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13時～14時をお昼寝の時間とし、1時間の休息を行っています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は入居者様にとって必要不可欠なものであり、飲み忘れ・誤薬がないように、服薬チェック表での確認。2人での確認を行い、服薬しています。状態の変化により、不快なく服用できるように薬の形態も変えています。	薬の一包化や薬袋への名前、日付けの記入を薬局に依頼し、服用時間帯ごとに色分けしたアンダーラインを依頼し、誤薬防止に努めている。調剤薬局が運営推進会議に参加しており、薬の形状や副作用等、日常的に相談しやすい関係ができています。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は、ご自分でやりたいことを優先して、脳トレ・ぬりえ・計算問題・写経・作品作り等に取り組まれます。時には利用者様同士で雑談され、楽しそうにしています。洗濯畳みや茶碗拭き、おやつ作りなど好きな方がいらっしゃいます。	毎月、行事やレクレーションを予定し、音楽療法や夏祭り、力士の来訪等、利用者が楽しめるよう工夫している。年に数回、利用者が自分で好きなドリンクを選んで注文し、モーニング気分を味わうことができるよう、「ぬくもり喫茶」を開催している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なかなか行きたい場所への外出の支援はできていませんが、花見や紅葉等近所のお寺に散歩に出かけています。最近、病院受診時にご家族様と外食してこられる方が増えました。	年間通して、毎月の外出計画を立てている。日常的に近所のお寺へ散歩に出かけており、花見や紅葉狩り等では季節を感じる事ができる。感染症対策を講じた上で家族との外出を許可しており、買い物やランチに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭の所持は紛失などの懸念があるので禁止しています。昨年から移動スーパーが始まり、楽しみにされている方もいます。中には好きなだけ買いたい！と我儘に言われる方もおり、1回500円まで、というように約束事をしながら対応しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自ら電話をしたり手紙のやり取りをする際は、家族様の了解を得てからにしています。利用者様がご家族に電話するときは、職員が電話し、利用者につないでいます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の構造上、洗面所や厨房から入居者様の状況が分からないので、夜間は特に不安な面があります。共有の壁には、入居者様の作品が掲示してあります。居室は銀行跡地の大きな窓で開放感があります。	食堂や廊下等の空間には、利用者の小作品が飾ってあり、生活感のあるホームとなっている。食堂は、利用者が自由に移動しやすいよう、動線を考えたテーブル配置となっており、窮屈感を感じることなく過ごせる空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平日の日中は、デイサービスのフロアで過ごします。曜日で利用者が変わり、おしゃべりも気分転換になっています。時折、デイの静養室や、テレビの前などその方の希望によって居場所が変わり、以前より気分転換が出来るようになっていきます。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さをご家族様が面会に来られても十分な広さがあります。テーブルや家具を持ち込み、思い思いの配置で過ごしておられます。また、ご家族様からの贈り物や、ご自身で作られた作品を飾って楽しんでいます。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においては、居室の名前などの目印や張り紙などで誘導の工夫をしています。		